

編集の序

整形外科が治療の対象とする疾患・外傷は多岐にわたり、保存的治療や観血的治療前後において、リハビリテーションは大きな柱となっております。今後も、高齢者の関節症や骨折の増加を背景とし、整形外科分野でのリハビリテーションのニーズは高まっていくと思われまふ。このため、整形外科分野のリハビリテーションについては膨大な書籍が既に発行されています。そのなかで、本書は疾患・外傷の原因や病態についてまとめた上で、リハビリテーションにおける評価・治療・患者コミュニケーションについて図表やカラー写真を多用してわかりやすく解説した入門書として企画されました。

効果的なリハビリテーションを行うための根拠と工夫を随所に盛り込むことで、新人セラピストや学生にも理解しやすく、医療現場や臨床実習ですぐに役立つ実践的なマニュアル書を目指して作成を進めてまいりました。主な特徴としては、以下があげられます。

- ① 図表やカラー写真を多用してわかりやすく解説
- ② 患者とのコミュニケーションのとり方や、指示や誘導の方法、意欲の引き出し方なども詳しく解説
- ③ 手技の感覚的なコツ・工夫を明文化
- ④ 解説はすべて箇条書きとし、理解を得られやすくした
- ⑤ 評価や治療について、よい例とともに不適切な例をあげた

取り上げた疾患は下記の基準を満たすものに絞りました。いずれの章も目を通す価値のある内容であると思われまふ。

- ① 学生が臨床実習で遭遇することが多いもの
 - ② セラピストや医師が病院や整形外科クリニックで担当することが多いもの
 - ③ 過去のPT・OT 国家試験の出題対象となったもの
 - ④ 国内外の類似の書籍で取り上げられているもの
 - ⑤ 診断名が明らかで、運動器リハビリテーションとして算定が可能と思われるもの
- 本書が1人でも多くの臨床家の方々の目に触れ、日々の臨床活動に一役買い、患者に少しでも貢献できることを切に願っております。

最後に、貴重な執筆・編集の機会を与えていただいた、鈴木様、小野寺様をはじめとする羊土社の関係者の皆様と、監修を快くお引き受けいただいた東京医科歯科大学医学部附属病院の神野哲也先生に心よりお礼申し上げます。

2012年5月

編者を代表して
相澤純也